

平成30年度

阿南市立山口小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 1 確かな学力と豊かな表現力を身に付けさせるための授業づくり
- 2 主体的に学び、行動する児童を育てるために必要な取組

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：稲井 智義 教頭：尾形 徳康
 教務主任：宮 真理子
 山崎 寛子 特別支援教育コーディネーター：宮 真理子
 人権教育主事：神野 友彦

校長

稲井 智義

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 漢字の読み書き、基本的な計算のスキルについてはほぼ身につけている。	①すすんで読書をし、文を読むことに慣れるとともに、理解言語、表出言語を豊かにする。 ②数感覚、数の量感を豊かにする。	①一か月の平均読書冊数を増やす。 ②スキルテストでの平均点を80点以上にする。			
課 題 修飾語、対義語等、国語の言語事項に関する知識があまり身につけていない。 問題文や資料をていねいに正しく読み取る力が弱く、長文になると最後まで読み切れない児童がいる。 算数では、単位を換算する技能、分数・小数の意味理解、数の量感が不足している傾向にある。	①学校や家庭での読書量を増やすための働きかけを積極的に行う。(学校での読書時間の確保、家庭での読書の推進、図書室の活用) ②作業や体験を通し、実感を伴って理解を深める活動に特化した授業を1単元につき1回は行う。	①1週間に1回は児童に図書室を利用させる。 ②算数1単元につき1回は具体物や図を使った授業を設定する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 人の話をよく聞き、自分なりに理解したことを自分なりの言葉で表現しようとする前向きな姿勢が見られる。 場に応じた態度での話し方や聞き方のできる児童が多い。	①与えられた条件に合わせて、意見や感想が書ける。 ②問題場面をイメージし、図やモデル、グラフや表を使って表現したり説明したりできる。	①与えられたキーワードやモデルに合わせて、単元ごとに学習のふり返りを書く。 ②教師の示したモデルを真似て、自分なりに説明ができる。			
課 題 問題文や資料の情報を正しく読み取り、それを基に考えをまとめ、話したり書いたりする力が弱い。 問題文や資料から場面をイメージしたり、グラフや図を活用したりして思考する力が不足している。	①キーワードを与えたり、書き方のモデルを提示したりして、単元ごとに学習のふり返りを書かせる。 ②問題場面をイメージしやすくしたり、児童が表現する際のモデルになったりするような板書とノート指導を工夫する。	①キーワードやモデルを提示し、単元ごとに学習のふり返りを書かせる。 ②文章問題の解説時には、具体物や図を使って説明する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 落ち着いた学習態度で、与えられた課題に真摯に取り組むまじめさをもった児童が多い。 家庭学習については、宿題以外の自主学習にも意欲的に取り組んでいる児童がいる。	①自分の興味・関心のあることについて自発的に調べたり、知らないことや分からないことを積極的に学習したりすることができる。 ②自主学習ノートの内容を工夫し、楽しみながら意欲的に家庭学習ができる。	①「勉強が楽しい」「いろいろなことを自分で調べるのが好き」と答える児童の割合を80%以上にする。 ②「家庭での自主学習をすすんでいる」「自主学習が楽しい」と答える児童の割合を80%以上にする。			
課 題 自分の興味や関心のあることについて自分からすすんで調べたり、分からないことを積極的に学習したりする意欲が弱い。 自主学習ノートの内容に個人差がある。	①児童の興味関心をひく学習課題を設定し、自ら進んで考えたり調べたりするような授業を工夫する。 ②家庭学習の手引きを見直し、自主学習の内容がよくなるようにするとともに、頑張りを評価し、次への意欲につながる言葉かけを心がける。	①本や図鑑等の資料やタブレットを活用した学習活動を意図的に計画する。 ②校内に自主学習コーナーを設け自主学習ノートを紹介し、頑張りを賞賛するコメントを残す。		評価	次年度における改善事項

平成30年度 学力向上ロードマップ

